

エスワティニ王国

(旧国名：スワジランド王国)

【国名】

- 2018年4月19日、国名をスワジランド王国からエスワティニ王国に変更。
- 国名はスワジ族の土地の意。スワジ族は、現在のエスワティニ、南アフリカ・ムプマランガ州及びモザンビークの一部に点在した近隣の他のソト、ングニ諸部族を掌握し、外交力と姻戚関係構築を通じて戦略的に国家の統一を図った。

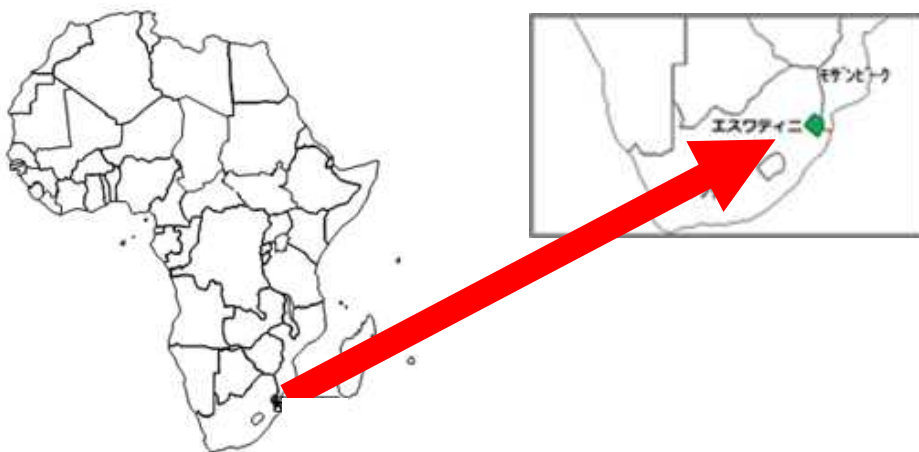
【国旗】

- 青は深く澄み渡る空と平和を、黄は豊富な鉱物資源を、赤は自由の為の闘争を象徴。中央はスワジ戦士の盾と槍や、青い天人鳥の羽をまとった王の笏（しゃく）で、盾の白と黒は牛の皮を表す。



【国土】

- エスワティニは南アフリカとモザンビークに周囲を囲まれた内陸国（南アとの国境線は約 430km, モザンビークとの国境線は約 105km）。国土は主に高原と丘陵地帯だが、国の北半分は谷が深く滝や溪流がある。夏は蒸し暑く雨量が多い。
- 10 月が最も暑く, 雨期は 12 月初め頃から 4 月末まで続く。低地草原では日中 40℃ 以上になることもあり, 干ばつの被害を受けやすい。5 月から 8 月までが冬で, 冬は雨量が少なく温暖だが, 高地では涼しく, 夜はかなり冷え込む。6, 7 月には所により霜が降りる。



【人口・民族】

- 人口は約 136.7 万人で，スワジ族中心（約 95% を占める）の国家であり，他にズール一族，ツォンガ族，ヨーロッパ系，カレード（ヨーロッパ系白人とアフリカ系黒人あるいはアジア系との混血）などにより構成される。
- 社会は家長制で一夫多妻制も認められており，男性の地位が圧倒的に高い。自分より強い者とは戦わないという不戦主義で英寄りの姿勢を貫いてきたこの国は，最後のアフリカ古王国の一つでもある。
- 人々は近代化を求めながらも，祭り際には民族衣装をまとい民族舞踊に熱中するなど伝統文化を尊重している。リード・ダンスという舞踊が良く知られており，国王は毎年舞踊祭を開催して参加者の中から妻を選ぶ（2014 年 9 月に開催されたリード・ダンス祭で国王は 14 人目の妻をめとった。）



ダンス祭で国王は 14

【経済情勢】

- 成人のHIV/AIDS感染率は約26%（2017年，UNICEF）と世界で最も高く，労働力の減少に伴う生産力の低下と1990年代後半より断続的に発生している干ばつの被害で農産物の生産量は著しく低下している。
- 政府はエイズ対策や数多くの経済活性化プログラムを実施し，また，台湾が資金と専門知識を提供してエスワティニ農業の多角化を試みているが（注：エスワティニはアフリカ唯一の台湾と外交関係のある国），近年は干ばつによる食糧危機やエイズの影響による生産者の減少により状況が悪化している。
- 正式な失業率の統計はないが，現在の失業率は40%を超えると見られている。政府は労働者に対する技術訓練に力を入れているものの，医師等専門職種の国外流出が深刻化している。

【政治情勢】

- エスワティニの行政及び立法においては国王が強い権能を有しており、王族とそのアドバイザーたちによって支配されている現在の政治システムは、地方では根強い支持があるものの、都市部を中心に不満が高まっており、近年、民主化を求めるデモが散発的に発生している。
- エスワティニの議会は二院制で議員の任期はそれぞれ5年。上院（30議席：20議席は国王勅撰，10議席は下院から任命），下院（75議席：10議席は国王勅撰，60議席は直接選挙によって選ばれ，残り4議席は地域を代表する女性，1議席は司法長官）。

【食事】

- 主食はメイズ，ミリトリ（トウモロコシの粉を水で練ったもの）で，これに野菜，時には肉（牛か鶏）を添えて食べる。

【観光】

- 西部には森林，東部には山野，内陸部には緑の高原と溪谷と，美しい地形を有しており，南ア等の近隣諸国や欧米からの観光客は多い。



- スワジキヤンドルは，花や動物といった題材が色付きロウでデザインされており，火をとともすとステンドグラスのように輝く。デザインにはヨーロッパの陶器やガラスに用いられる「ミルフィオーレ」と呼ばれる技術が取り入れられているとされる。
- 動物の置物，食器などのスワジ・ガラスは，空き瓶などの再生ガラスを原料としており，国境沿いの町ヌグウェニヤのガラス工場が有名。製法には，スウェーデンのガラス細工の技術が取り入れられているとされる。

(了)